

# 令和3年度事業報告

社会福祉法人 ロザリオの聖母会  
共同生活援助事業所  
ナザレの家あさひ

# Ⅰ 事業の概要

## 1 概括

今年度は、昨年度と同様に新型コロナウイルス対応に追われた一年になった。年度の中である程度終息をしていき、従来の生活に戻っていくような事を年度当初は期待していたが、そのような事は無く、逆に年度末も差し迫った3月初めには、事業所内における感染も発生し、その後いくつかのホームにも広がりを見せたため、大変な対応に追われる事態となった。ハウスによっては動線を分けることが難しかったりなど、建物の環境による対応の難しさや、感染の拡大を防ぐためには、職員配置を見直さなければならず、その際の人材不足など、このような有事の際の対応の難しさや課題が残る事となった。また、グループホームは利用者さんにとってはあくまでも「暮らしの場」であり、このような時にも事業を停止することは出来ない事や、今の状況を考えると短期間で元の生活に戻ることは難しいため、今後は感染のリスクとうまく付き合いながら、より良い生活を送ってもらうためにどうしたら良いかを考えていく必要もあると考える。この辺りは、行事などを含めて来年度の支援の方向性を検討していきたい。

次に、本来は今年度受け入れ予定であった技能実習生に関しては、入国制限の関係で今年度の受け入れは出来なかったが、別の取り組みとして特定技能という形で、外国人労働者の雇用を行うことが出来た。これは、将来的には技能実習生を受け入れる際の体制整備にも繋がる事と、今後の人材不足対策を考えた時には有効な為、来年度以降も継続していきたい。

2 施設（事業所）所在地 千葉県旭市野中4017

3 施設（事業所）開設年月日 平成18年10月1日

## 4 沿革

1996年（平成8年）	4月 1日	福祉ホーム野中ハイツ開設	定員10名
1997年（平成9年）	1月 23日	若衆内ハウス開設	定員15名
2003年（平成15年）	4月 1日	横大道ハウス開設	定員21名
2004年（平成16年）	10月 1日	中川ハウス開設	定員25名
2004年（平成16年）	11月 1日	菽園ハウス開設	定員29名
2005年（平成17年）	5月 1日	東足洗ハウス開設	定員34名
2005年（平成17年）	9月 1日	立野ハウス開設	定員38名
2006年（平成18年）	4月 1日	グループホーム支援室開設	
2006年（平成18年）	10月 1日	ケアホーム旭・グループホーム旭事業所指定 共同生活介護・共同生活援助事業開始 野中ハイツ 福祉ホームからグループホーム に変更 東町ハウス開設	定員44名
2007年（平成19年）	4月 1日	大割ハウス開設	定員49名
2007年（平成19年）	7月 1日	グループホーム支援センター開設 荒井 隆一が所長となる	
2007年（平成19年）	8月 1日	対馬ハウス開設	定員53名
2008年（平成20年）	3月 1日	下立ハウス開設	定員58名
2008年（平成20年）	7月 1日	東町ハウス転居	広原ハウスに改名

2009年(平成21年)	4月	1日	野中ハイツ定員10名から、野中ハイツI定員5名・野中ハイツII定員5名に変更。
2009年(平成21年)	9月	1日	生沼ハウス開設 定員61名
2011年(平成23年)	6月	1日	矢指ハウス開設 定員65名 震災に伴い立野ハウス転居(廃止) 西足洗ハウス開設
2012年(平成24年)	1月	1日	小割ハウス開設 定員67名
2012年(平成24年)	2月	1日	仲町ハウス開設 定員72名
2012年(平成24年)	5月	7日	下立ハウス 震災による修繕工事完了
2012年(平成24年)	6月	7日	野中ハイツ 震災による修繕工事完了
2012年(平成24年)	11月	5日	若衆内ハウス 世話人室・喫煙室増設
2014年(平成26年)	3月	27日	中川ハウス・対馬ハウス・東足洗ハウス・ 萩園ハウス 自動火災報知設備設置
2014年(平成26年)	3月	31日	下立ハウス スプリンクラー設備整備
2014年(平成26年)	4月	1日	折戸ハウスI開設 定員77名
2014年(平成26年)	4月	1日	折戸ハウスII開設 定員82名
2014年(平成26年)	7月	16日	横大道ハウス定員6名から定員7名に変更 定員83名
2015年(平成27年)	2月	1日	横大道ハウス定員7名から定員6名に変更 定員82名
2015年(平成27年)	2月	1日	折戸ハウスI定員5名から定員6名に変更 定員83名
2016年(平成28年)	7月	1日	仲才ハウス開設 定員92名
2017年(平成29年)	3月	31日	横大道ハウス・中川ハウス・対馬ハウス スプリンクラー設備整備
2017年(平成29年)	5月	1日	仲町ハウス廃止 川間ハウス開設 定員90名
2018年(平成30年)	2月	22日	萩園ハウス・東足洗ハウス・矢指ハウス スプリンクラー設備整備
2018年(平成30年)	8月	1日	上宿ハウス開設(サテライト型) 定員91名

## 5 実施事業及び利用者数

### 5-1 第2種社会福祉事業

#### (1) 共同生活援助事業

### 5-2 障害者総合支援法による指定事業

#### (1) 共同生活援助事業(介護サービス包括型)

(定員91名、令和4年3月31日現在の利用者数：83人)

- ア 野中ハイツI(定員男性5人、令和4年3月31日現在の利用者数：5人)  
千葉県旭市野中3622-2
- イ 野中ハイツII(定員女性5人、令和4年3月31日現在の利用者数：5人)  
千葉県旭市野中3622-2
- ウ 若衆内ハウス(定員男性5人、令和4年3月31日現在の利用者数：5人)  
千葉県旭市ニ3500-11
- エ 横大道ハウス(定員男性6人、令和4年3月31日現在の利用者数：6人)  
千葉県旭市三川横大道7542-2
- オ 中川ハウス(定員男性4人、令和4年3月31日現在の利用者数：4人)  
千葉県野中4070-2

- カ 萩園ハウス（定員女性4人、令和4年3月31日現在の利用者数：4人）  
千葉県旭市萩園1250-4
- キ 東足洗ハウス（定員男性5人、令和4年3月31日現在の利用者数：5人）  
千葉県旭市東足洗2277-1
- ク 西足洗ハウス（定員男性4人、令和4年3月31日現在の利用者数：3人）  
千葉県旭市西足洗562-56
- ケ 広原ハウス（定員男性6人、令和4年3月31日現在の利用者数：6人）  
千葉県旭市野中4075-4
- コ 大割ハウス（定員女性5人、令和4年3月31日現在の利用者数：5人）  
千葉県旭市野中3811
- サ 対馬ハウス（定員4人、令和4年3月31日現在の利用者数：4人）  
千葉県旭市野中4070-2
- シ 下立ハウス（定員男性5人、令和4年3月31日現在の利用者数：3人）  
千葉県旭市野中3625-1
- ス 生沼ハウス（定員女性3人、令和4年3月31日現在の利用者数：3人）  
千葉県旭市イ1694-8
- セ 矢指ハウス（定員4人、令和4年3月31日現在の利用者数：4人）  
千葉県旭市野中3811-2
- ソ 小割ハウス（定員男性2人、令和4年3月31日現在の利用者数：1人）  
千葉県旭市野中3850-6
- タ 川間ハウス（定員男性3人、令和4年3月31日現在の利用者数：2人）  
千葉県旭市萩園1889
- チ 折戸ハウスⅠ（定員6人、令和4年3月31日現在の利用者数：5人）  
千葉県旭市野中3985-4
- ツ 折戸ハウスⅡ（定員5人、令和4年3月31日現在の利用者数：5人）  
千葉県旭市野中3985-4
- テ 仲才ハウス（定員9名、令和4年3月31日現在の利用者数：8人）  
千葉県旭市二2491-1
- ト 上宿ハウス（定員1名、令和4年3月31日現在の利用者数：0人）

## 6 職員構成

別紙1のとおり（令和4年3月31日現在の職員数）

## 7 組織図

別紙2のとおり（令和4年3月31日現在の組織図）

## 8 令和元年度重点目標実施報告

### 8-1 運営管理

- ア 人材の確保に関しては、特定技能の制度を活用して、雇用に繋げることが出来た。
- イ 空き状況に関しては、昨年度に比べると、新規の受け入れを行うことが出来たが、まだ空き部屋がある状況の為、来年度も引き続き受け入れを行っていきたい。
- ウ 社会福祉会計基準や各規程に従うとともに、会計監査人による監査を通じ適正な会計処理に努めた。業務の効率化については、情報の整理と伝達、共有の仕方などを関係者で都度見直しを行うなど、次年度以降も取り組んでいきたい。
- エ 事業計画に基づいたサービスの提供を心掛けるとともに、常に社会の動向などを注視し生活環境の提供が行えるよう努めた。年度末に発生した新型コロナウイルスの感染

者に対応する際には、常に法人本部と情報の共有をし、保健所の指示の下、状況や利用者の状態に即した対応を行うことができた。

- オ 財務情報や事業報告、県や健康福祉センターなどから求められる利用実績等については、法人のホームページ等を通じて情報公開していくよう心掛けた。しかし事業所のホームページの更新について行うことができなかつたため、次年度はIT担当等により随時更新できるよう努めていく。
- カ 特定技能という形で、令和3年11月から職員1名を採用することができた。この採用に伴い、仕事や生活をフォローするために登録支援機関と契約し、採用時から現在に至るまで様々なアドバイスをいただいている。事前の準備として、常に法人本部との連携を心掛け、本部を中心に住居や備品などの準備をした。なお、備品に関しては、法人内の各施設・事業所職員の協力を得ることができ、スムーズに生活環境の準備を進めることができた。職場の事前準備としては、利用者や職員に、言葉の説明だけでなく動画を視聴してもらったりなどし、丁寧に説明を行うことで理解をしていただいた。

## 8-2 利用者サービス

- ア 千葉県障害者グループホーム等支援ワーカー主催のWEB研修に職員を参加させ、自己選択・自己決定について学ぶ機会を設けた。また、利用者が自己選択・自己決定し、地域の中でその人らしい生活が送れるよう利用者との面談やミーティングを定期的に行った。
- イ 各ハウスにナザレの家あさひ事業所の連絡先等を掲示し、利用者が相談しやすい環境を整えた。
- ウ 個別支援計画の策定過程を所内ミーティングの中で確認し、より良いサービスの提供となるよう努めた。
- エ 世話人会議を開催し統一した支援の構築に努めた。新型コロナウイルス発生に伴い、全体での会議が開催できない場合はハウスミーティングを活用し周知する等、方法を変更した。
- オ 世話人会議の中で研修会を開催していった。新型コロナウイルス感染症予防のため三密を避け、小グループの研修に切り替え開催した。
- カ ソフィアと医療連携を締結し、定期的にご利用者の元へ訪問させ、健康状態の把握に努めた。緊急時にはソフィアに医療的対応の判断を仰ぎ対応するケースもあった。
- キ 社会福祉協議会の日常生活自立支援事業を新規で3名の方が希望し支援にあたっている。
- ク 日中の過ごし方の提案として、海匠ネットワークや友の家のフリースペースに繋げることがあった。また、見学者や体験者へ地域資源を適宜紹介している。
- ケ 建物の保全・老朽化対策として、生沼ハウスの居室等改修工事を行った。また、同ハウスには世話人室が整備されていなかったため、ユニットハウスを敷地内に設置し、職員が使用できるスペースを確保した。
- コ 公用車の整備について、当初計画していた福祉車両は、利用者が使用する車椅子の仕様が多様化してきており、選定条件として特注仕様の車椅子でも乗車が可能な車両を探す必要があったことから次年度に持ち越すこととした。また、令和4年4月に契約満了を迎える2台の車両については、経年による劣化が著しいため新たな車両をリース契約することになっている。

サ 利用者と職員それぞれに対し、より良い生活環境と働きやすい職場環境の提供が行えるよう努めた。

なお、令和3年度事業計画に基づき新たに取得・設置した建物や備品については以下の通りである。

I. 生沼ハウス 屋根・外壁等改修工事

株式会社常世田興建

令和3年 9月 8日契約

令和3年11月29日完了

2,420,000円(自己資金)

II. 生沼ハウス ユニット設置工事

インテリア謙光

令和3年12月29日契約

令和4年 2月10日完了

858,000円(自己資金)

III. ラフォーレ充伸105 硬貨収納式電話機の購入

東日本電信電話株式会社(NTT東日本)

令和3年10月22日契約

令和3年11月 2日設置

121,880円(自己資金)

シ 触法障害者の受入に向け関係者と協力し支援体制の構築を進めた。

ス レスパイト利用の相談があり、定員外の空き室を貸し出した。

セ 緊急的な受入に備え、空床や居室の環境整備を行った。

### 8-3 安全衛生対策

ア 旭消防署へ誤嚥事故や救命救急の対応に関する研修を依頼し、グループホーム内において小規模な研修会を開催し、利用者の誤嚥事故や急変に備えた。

イ 職員が配属された際のオリエンテーションの中で腰痛予防に努めるよう伝えていった。また、定期的に身体介護の練習を行い、介護事故防止に努めた。

ウ 良好な職員関係の構築と働きやすい職場環境になるよう、職員と定期面談を行った。

エ 新型コロナウイルスが事業所内で発生している期間中は職員のストレスが高まっていた。新型コロナウイルスが発生したハウスに勤務する職員の待機部屋を設ける。勤務する職員の食事代を事業所が負担する等し、現場に入る職員が少しでも働きやすくなるよう努めた。

オ 年2回の防災訓練と法人合同防災訓練を1回実施予定だったが、3月の防災訓練は事業所内において新型コロナウイルス感染が発生したため中止した。

6月の内容として、日中、火災の場面を想定し実施した。

防災訓練は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、消防署の立ち会いを依頼せず実施した。

消防設備の点検については、防災設備会社と契約し年2回の点検を行っているが新型

コロナウイルス感染者でた為3月の消防設備点検は中止した。

カ BCPマニュアルの見直しを行い、新型コロナウイルス感染に関する事項を追加した。

キ コロナウイルス感染対策として

- ・世話人会議にて建物内の消毒方法や汚物の処理についての勉強会を実施した。
- ・緊急事態宣言中及びまん延防止等重点措置期間中は外泊、外出は極力控えて頂く様利用者及び職員へ周知した。
- ・ハウスでの食事（朝、昼、夕）は密にならないように時間をずらしていく、仕切りを立てるといった対策を講じた。
- ・職員・利用者さんにマスクの着用・手指消毒の徹底を周知した。

ク 利用者の個人情報外部から確認できないように保管場所や保管方法についての確認・徹底を行った。また、事務所内のデスク周辺の整理整頓を心がけるよう周知していった。

ケ Googleのアプリケーションを活用し、事業所内のスケジュール管理及び情報共有を行った。

コ 新型コロナウイルス感染症対策として、関係機関との会議を必要に応じオンライン会議に切り替えて行った。

## 9 報告事項

### 9-1 理事会審議事項

#### 第242回理事会 運営規程の変更について

### 10 1年のあゆみ

- 3. 4. 1 辞令交付
- 6. 21~24 全ホーム防災訓練
- 9. 1 合同防災訓練
- 11. 5 C班外出（ふなばしアンデルセン公園）
- 11. 12 B班外出（大洗水族館）
- 11. 26 A班外出（千葉市動物公園）
- 12. 25 もちつき会
- 4. 1. 4 新年あいさつ会
- 3. 2~15 千葉県サービス管理責任者更新研修
- 3. 22~25 全ホーム防災訓練（中止）

## II 利用者の概要

### 1 ナザレの家あさひ

#### 1-1 利用者の平均年齢

58.7歳

#### 1-2 日中活動の状況

就労 2人、生活介護施設 22人、就労継続B型施設 15人  
就労移行施設 2人 高齢者デイサービス 2人、その他 33人  
移動支援 18人、行動援護 3人、重度訪問介護 2人、身体介護 3人

\*重複あり

1-3 出身地の状況

旭市 27人、香取市 3人、匝瑳市 6人、山武市 4人、千葉市 3人  
銚子市 16人、東金市 1人、東庄町 2人、船橋市 2人、市原市 1人  
四街道市 1人、横芝光町 2人、茂原市 2人、市川市 1人、多古町 2人  
東京都（江東区 2人、渋谷区 1人、台東区 1人、目黒区 1人、  
板橋区 1人、江戸川区 1人）  
茨城県 1人、埼玉県 1人、宮城県 1人  
計 24区市町

1-4 障害支援区分

非該当 3人、区分2 10人、区分3 25人  
区分4 22人、区分5 11人、区分6 12人  
平均障害支援区分 3.77

1-5 入退去の状況

入居 4名  
在宅より 4名  
婦人保護施設より 1名  
病院より 1名  
  
退去 4名  
逝去 2名  
施設入所へ 1名  
介護保険施設へ 1名

2 ホーム別概要

2-1 野中ハイツI

(1) 利用者の年齢

49歳 1人、61歳 1人、62歳 1人、69歳 1人、79歳 1人  
平均年齢 64歳

(2) 日中活動の状況

その他5人

(3) 出身地の状況

旭市 1人、銚子市 2人、匝瑳市 1人、東庄町 1人

(4) 障害支援区分

区分4 1人、区分3 4人

2-2 野中ハイツII

(1) 利用者の年齢

18歳 1人、52歳 1人、57歳 1人、64歳 1人、66歳 1人  
平均年齢 51.4歳

(2) 日中活動の状況

就労継続B型施設 1人 その他 4人

- (3) 出身地の状況  
旭市 2人、銚子市 1人、匝瑳市 1人、市原市 1人
  - (4) 障害支援区分  
区分3 2人、区分4 3人
- 2-3 若衆内ハウス
- (1) 利用者の年齢  
35歳 1人、47歳 1人、71歳 1人、72歳 2人  
平均年齢 59.4歳
  - (2) 日中活動の状況  
就労継続B型施設 1人、生活介護施設 1人、その他 3人
  - (3) 出身地の状況  
旭市 1人、東庄町 1人、茂原市 1人、銚子市 1人、東京都 1人
  - (4) 障害支援区分  
非該当 1人、区分3 3人、区分4 1人
- 2-4 横大道ハウス
- (1) 利用者の年齢  
37歳 1人、42歳 1人、55歳 1人、59歳 1人、63歳 1人、  
66歳 1人  
平均年齢 53.6歳
  - (2) 日中活動の状況  
就労継続B型施設 3人、生活介護施設 3人
  - (3) 出身地の状況  
旭市 3人、銚子市 2人 宮城県 1人
  - (4) 障害支援区分  
区分3 2人、区分4 2人、区分5 2人
- 2-5 中川ハウス
- (1) 利用者の年齢  
45歳 1人、51歳 1人、65歳 1人、71歳 1人  
平均年齢 58歳
  - (2) 日中活動の状況  
生活介護施設 3人、その他 1人
  - (3) 出身地の状況  
香取市 1人、匝瑳市 1人、山武市 1人、船橋市 1人
  - (4) 障害支援区分  
区分5 2人、区分6 2人

2-6 萩園ハウス

- (1) 利用者の年齢  
44歳 1人、46歳 1人、57歳 1人、74歳 1人  
平均年齢 55.2歳
- (2) 日中活動の状況  
就労 1人、生活介護施設 2人、高齢者デイサービス 1人
- (3) 出身地の状況  
旭市 1人、千葉市 1人、銚子市 1人、四街道市 1人
- (4) 障害支援区分  
区分4 1人、区分5 2人、区分6 1人

2-7 東足洗ハウス

- (1) 利用者の年齢  
44歳 1人、46歳 1人、60歳 1人、69歳 1人、76歳 1人  
平均年齢 59歳
- (2) 日中活動の状況  
生活介護施設 5人
- (3) 出身地の状況  
匝瑳市 1人、千葉市 1人、銚子市 1人、東金市 1人、旭市 1人
- (4) 障害支援区分  
区分5 2人、区分6 3人

2-8 西足洗ハウス

- (1) 利用者の年齢  
19歳 1人、63歳 2人  
平均年齢 48.3歳
- (2) 日中活動の状況  
就労継続移行施設 1人、その他 2人
- (3) 出身地の状況  
山武市 1人、銚子市 2人
- (4) 障害支援区分  
区分3 3人

2-9 広原ハウス

- (1) 利用者の年齢  
45歳 1人、68歳 1人、58歳 1人、65歳 1人、  
70歳 1人、73歳 1人  
平均年齢 63.1歳

- (2) 日中活動の状況  
生活介護施設 2人、就労継続B型施設 1人 その他 3人
- (3) 出身地の状況  
旭市 2人、銚子市 2人、船橋市 1人、多古町1人
- (4) 障害支援区分  
区分2 1人、区分3 2人、区分4 3人

#### 2-10 大割ハウス

- (1) 利用者の年齢  
50歳 1人、63歳、70歳 1人、82歳 1人、93歳 1人  
平均年齢71.6歳
- (2) 日中活動の状況  
就労継続B型施設 1人、その他 4人
- (3) 出身地の状況  
旭市 1人、東京都 2人、茨城県 1人、山武市1人
- (4) 障害支援区分  
非該当1人、 区分2 2人、区分4 2人

#### 2-11 対馬ハウス

- (1) 利用者の年齢  
19歳 1人、60歳 1人、53歳 1人、85歳 1人  
平均年齢 54.3歳
- (2) 日中活動の状況  
生活介護施設 2人、高齢者デイサービス 1人 就労継続B型施設、1人
- (3) 出身地の状況  
旭市 3人、埼玉県 1人
- (4) 障害支援区分  
区分6 1人、 区分5 1人、 区分4 2人

#### 2-12 下立ハウス

- (1) 利用者の年齢  
51歳 1人、54歳 1人、63歳 1人  
平均年齢 56歳
- (2) 日中活動の状況  
就労継続B型施設 1人、その他 2人
- (3) 出身地の状況  
銚子市 1人、 香取市 1人、 千葉市 1人

- (4) 障害支援区分  
区分4 2人、区分6 1人

2-13 生沼ハウス

- (1) 利用者の年齢  
48歳 1人、56歳 1人、71歳 1人  
平均年齢 58.3歳

- (2) 日中活動の状況  
就労継続B型施設 1人、その他 2人

- (3) 出身地の状況  
旭市 3人

- (4) 障害支援区分  
区分4 2人、区分3 1人

2-14 矢指ハウス

- (1) 利用者の年齢  
49歳 1人、58歳 1人、62歳 1人、71歳 1人  
平均年齢 59.5歳

- (2) 日中活動の状況  
就労継続B型 1人、生活介護施設 1人、その他 2人

- (3) 出身地の状況  
旭市 3人、茂原市 1人

- (4) 障害支援区分  
区分4 1人、区分6 3人

2-15 小割ハウス

- (1) 利用者の年齢  
35歳 1人  
平均年齢 35.0歳

- (2) 日中活動の状況  
就労継続B型(週1日午前中のみ) 1人

- (3) 出身地の状況  
銚子市 1人

- (4) 障害支援区分  
区分5 1人

2-16 川間ハウス

- (1) 利用者の年齢  
73歳 1人、76歳 1人

平均年齢 74.5歳

- (2) 日中活動の状況  
その他 2人
- (3) 出身地の状況  
市川市 1人、東京都 1人
- (4) 障害支援区分  
区分2 1人、区分3 1人

#### 2-17 折戸ハウスⅠ

- (1) 利用者の年齢  
55歳 1人、64歳 2人、73歳 1人、76歳 1人  
平均年齢 66.4歳
- (2) 日中活動の状況  
就労継続B型施設 1人、その他 4人
- (3) 出身地の状況  
多古町 1人、東京都 1人、横芝光町 1人、銚子市 1人、匝瑳市 1人
- (4) 障害支援区分  
区分2 1人、区分3 2人、区分4 1人、非該当 1人

#### 2-18 折戸ハウスⅡ

- (1) 利用者の年齢  
36歳 1人、50歳 1人、66歳 1人、72歳 2人  
平均年齢 59歳
- (2) 日中活動の状況  
就労継続B型施設 3人、その他 2人
- (3) 出身地の状況  
旭市 3人、匝瑳市 1人、山武市 1人
- (4) 障害支援区分  
区分2 2人、区分3 3人

#### 2-19 仲才ハウス

- (1) 利用者年齢  
28歳 1人、36歳 1人、39歳 1人、43歳 1人  
65歳 1人、72歳 1人、73歳 1人、78歳 1人、  
平均年齢 54.2歳
- (2) 日中活動の状況  
就労継続B型施設 1人、生活介護 1人、就労 1人、その他 6人
- (3) 出勤地の状況

東京都 2人、横芝光町 1人、銚子市 1人、旭市 3人  
香取市 1人

- (4) 障害支援区分  
区分2 4人、区分3 2人、区分4 1人、区分5 1人

2-20 上宿ハウス  
現在利用者0人

### Ⅲ 支援の概要

#### 1 日課等

利用者個々の状況に合わせて、以下の支援の提供を関係者と協力しながら行った。

- (1) 利用者に対する相談
- (2) 食事の提供
- (3) 健康管理・金銭管理の援助
- (4) 余暇活動の支援
- (5) 緊急時の対応
- (6) 職場等との連絡・調整
- (7) 財産管理等の日常生活に必要な援助
- (8) 食事や入浴、排せつ等の介護等
- (9) 体験利用

#### 2 部門別報告

##### 2-1 管理者

- (1) 人材不足に関しては、技能実習生の受け入れや特定技能の活用など、ある程度の目途を立てることが出来た。今後はこれらの継続的な運用を目指していきたい。
- (2) 事業所全体の体制に関しては、来年度以降、事業所内でプロジェクトチームを創設して検討していきたい。

##### 2-2 サービス管理責任者

- (1) 利用者と定期面談を実施し施設入所や介護保険の事業所、訪問診療等の利用を希望されることがあった、関係機関と協力し支援にあたっている。
- (2) 複数名の利用者に対し一人暮らしを目標に、上宿ハウス（サテライト型ハウス）を利用しないか提案していった。今後も定期的に地域移行の希望を伺っていきたい。
- (3) 各種連絡会を定期開催し、旭圏域の情報や利用者の支援状況などを関係機関と情報共有し、利用者の希望する暮らしに近づけられるよう努めた。
- (4) 職員と適宜面談を行い、支援方法の助言や職場内の風紀秩序の調整に努めた。
- (5) 新型コロナウイルスが事業所内外で発生し、利用者の夜間・日中の過ごし方について関係機関と協力し調整して行った。新型コロナウイルスの影響によりハウス居室内で過ごさなければならない利用者があった。利用者は大きなストレスを抱えており、利用者のストレスケアに努めた。
- (6) 新型コロナウイルス発生により、複数の事業所が介する会議については3蜜を回避するため、WEBでの会議に切り替えて実施し、関係機関と連携を図った。

##### 2-3 世話人・生活支援員

- (1) 食事・入浴・排泄・相談相手になる等、利用者個々のニーズに合わせ支援して行っ

た。

- (2) 個別支援計画に基づき、関係機関と協力しながら利用者支援にあたった。
- (3) 適切な支援を提供するため、サービス管理責任者や医療関係者のアドバイスを適宜求めた。
- (4) 利用者の高齢化・重度化により転倒リスクが高まる方があった。支援の方法を変更する。介護用品を導入する等し、事故防止に努めた。
- (5) 新型コロナウイルス発生時は職員間で協力し利用者支援にあたった。勤務する際はマスク・手袋の着用や手指消毒の徹底をし、コロナウイルスを伝播させないように努めた。

#### 2-4 事務員

- (1) 事業所の窓口として、言葉遣いなどに気を配り、他者の求めている事を理解し、丁寧かつ明確な説明や応対を心掛けた。
- (2) 新型コロナウイルス感染者が発生した事により、電話やメール、電子決裁など間接的な情報共有や、報告、連絡、相談をする機会が、より一層増えた。そのため、齟齬が生じないように、簡潔かつ正確な伝達を心掛けた。また部門内職員の休暇等の対応として、業務内容の確認と分掌をし、滞りなく進められるよう努めた。
- (3) 今年度行われた報酬改定により基本報酬などの減額が見込まれたが、利用者の入居や加算の算定、計画の見直しなどを行い運営の安定に努めた。計画に基づく運営だけではなく、近年頻回に発生する停電や断水、感染対策や感染者の支援など、災害や感染症などあらゆる不測の事態にも臨機応変に対応出来るよう、今後も引き続き資金確保や予算の管理を心掛けていきたい。
- (4) 利用者の金銭管理について、利用者預り金管理規定（内規）に従い、不適切な事例が生じないように細心の注意を払った。また、定期的に通帳残高を確認し、不足にならないよう努めた。
- (5) 小口現金について、事業の特性上取扱件数が多くなりがちであるが、期限を超えた事例が生じてしまった。改めて不適切な事例が生じないように対策を講じるとともに、できるだけ現金の取り扱いを減らすことができるよう検討していきたい。
- (6) 建物や設備等の修繕について、管理者やハウス担当、法人アドバイザーと相談し、無駄のない、より良い生活環境の提供に努めた。
- (7) 新型コロナウイルス感染症に関し、千葉県障害福祉サービス施設・事業所における感染防止対策支援事業（衛生用品・感染対策備品の経費補助）の支援金を受領した。また、今年度、事業所の利用者・職員それぞれに新型コロナウイルスの感染者が発生した。日頃から衛生用品や検査キットなどの準備を心掛けていたが、数量不足や整備していない物品もあり、法人本部をはじめ各施設・事業所からたくさんの物品提供の協力を得ることができ本当に助かった。この経験を活かし、次年度以降も衛生用品や備品などの整備・管理・運用などを随時検討していきたい。

#### 2-5 野中ハイツ I

- (1) 月に一度利用者とのミーティングを行い、利用者の要望を聞いていった。利用者の希望で、毎週水曜日は買い物同行支援を行った。新型コロナウイルス蔓延防止期間は、買い物を代行し、感染対策に努めた。
- (2) 感染対策として、マスクの着用、手指消毒、不要不急の外出・外泊を控え、食事は各居室で取るようにした。
- (3) 精神症状を崩し入院されていた方が10月に退院され、グループホームでの生活を再開したが、状態が安定せず12月に再度入院された。
- (4) 8月から1名の利用者が仲才ハウスより転入居される。

## 2-6 野中ハイツⅡ

- (1) 一人一人個性があり、利用者間のトラブルも多いが、一つ一つ向かい合い納得できるように支援を行なった。
- (2) 利用者の誕生会を開催し利用者の希望する食事を予算内で提供した。
- (3) 利用者ミーティングを毎月1回開催し、利用者の要望を汲み取っていった。また、利用者の困りごとについてもこの時間を使い適切に対応した。
- (4) ハウス内及び希望があった利用者の居室清掃を行い、ハウス内の美化に努めた。また、入浴支援の希望があった利用者について支援を行った。
- (5) 服薬管理の必要な利用者3名について、引き続き支援を行なっているが、自己管理には至っていない。
- (5) 7月、空床が続いていた居室に利用者が1名入居される。
- (6) 9月に利用者が1名別ハウスへ移動している。
- (7) 精神症状が安定せず12月から精神科病院へ1名入院している。  
った。

## 2-7 若衆内ハウス

- (1) 月に一度、利用者とのミーティングを行った。
- (2) 今年度、日帰り旅行を計画していたが、感染症の影響で中止となった。
- (3) 地域活動の一環として、町内会の溝掃除に利用者とともに参加した。
- (4) 感染対策として、マスクの着用、手指消毒、不要不急の外出・外泊は控えた。食事は2回に分けて、少人数で取るようにした。

## 2-8 横大道ハウス

- (1) 通院や床屋、買い物の支援依頼があった際は適宜要望に答えた。
- (2) 利用者1名については、ほぼ毎日朝夕に外出をしているので、事故等がないよう注意喚起していった。
- (3) 世話人・ハウス担当で月1回ミーティングを行い、情報共有し支援を行った。
- (4) 一泊旅行を企画したが、新型コロナウイルス発生により、企画を遂行することができなかった。
- (5) 利用者1名が長期不在になることがあった
- (6) 新型コロナウイルスが日中活動先で発生し、ハウス内での生活を余儀なくされ、利用者が不安な時を過ごした。新型コロナウイルス感染対策として、食事の時間をずらし共有スペースが密にならないようにし、マスク使用と手指消毒の徹底を呼び掛けていった。

## 2-9 中川ハウス

- (1) 重度知的障害のある利用者が入居しており、複数の支援者や事業者が関わっているため、毎月のミーティングや日中活動先との連絡会において情報共有し、支援を行った。
- (2) 加齢によるADLの低下で転倒を繰り返す利用者に対して、見守りをしっかりと行い支援にあたった。他施設によるST、PTなどから指導や訓練を行った。
- (3) 新型コロナウイルス感染対策として、不要不急の外出や外泊を控えた。また、外出時のマスク着用や手指消毒を励行した。ハウス内での食事の際は、テーブルの上にローパーティションを置き、飛沫感染防止に努めた。

## 2-10 萩園ハウス

- (1) 日中活動先等と情報共有し、健康状態の確認を行った。

- (2) 新型コロナウイルスの感染予防として手洗い消毒や移動支援での外出は控えたが、ハウス内で感染者が出てしまった。療養や自粛期間を明け、現在は通常の生活に戻っている。
- (3) 複数の世話人が交替で支援をしている為、月1回のミーティングを行い支援の確認を行った。
- (4) 新型コロナウイルスの感染予防で移動支援での外出は控えた。散歩等の個別の関わりを大切に行った。また、自粛の影響で外出ができなかった為、利用者の希望に合わせた献立を提供するよう努めた。

#### 2-1-1 東足洗ハウス

- (1) 月1回ミーティングを実施し支援の確認を行った。
- (2) 現在、5名の利用者全員が他法人の生活介護事業所を利用しており、密に連絡をとりあいながら支援あつた。
- (3) 利用者の希望の献立で誕生日会を行った。
- (4) 日々のバイタルチェックを行い、医療機関や日中活動先と連携して、健康状態の確認を行った。
- (5) 言葉の出にくい利用者に対し、配慮した接し方となるよう、職員間の支援統一に努めた。
- (6) 移動支援中の怪我で骨折してしまい1名の長期入院があった。
- (7) 新型コロナウイルスに4名感染してしまい療養生活を余儀なくされ利用者は大変な思いをされた。今後の感染対策として手指消毒、換気の徹底を周知した。

#### 2-1-2 西足洗ハウス

- (1) 男性1名がR2年9月から長期入院している。男性1名R3年8月体調不良により、救急搬送にて入院となるが翌日逝去する。
- (2) 男性1名R3年5月に入居する。
- (3) 新型コロナウイルス感染対策として、外食を中止とし外出時はマスク着用、手指消毒をするように入居者に伝えていった。

#### 2-1-3 広原ハウス

- (1) 毎月1回ミーティングを実施し、利用者の状態に合わせた支援方法となるよう検討していった。適宜利用者の困りごとを伺い、解決に向かうよう努めた。
- (2) 他市町村より12月から1名入居する
- (3) 利用者1名、8月に体調不良で入院。手術後身体障害となり、リハビリ病院へ転院し入院する。
- (4) 利用者1名が6月に退去し施設入所の利用を開始する。
- (5) 健康管理が必要な利用者が増えているため状態に合わせて支援を行った。
- (6) 新型コロナウイルス感染対策として、入居者の買い物を代行した。不要不急の外出や外泊は控えた。マスク着用と手指消毒の徹底を呼び掛けた。

#### 2-1-4 大割ハウス

- (1) 今年度も一泊旅行を計画していたが、感染症の影響で中止となった。
- (2) 利用者の高齢化に伴い、体調不良等による通院が増えた。事業所内で最高齢の利用者もいるため、体調の変化に気をつけ、支援を行った。
- (3) 新型コロナウイルス発生に伴い、買い物支援を1名～2名の利用者限定し対応し、個別化していった。また、関係機関と情報共有を行い、支援体制を整えた。
- (4) 毎月ミーティングの時間を大切にし、利用者の要望に答えた。
- (5) 新型コロナウイルス感染対策としてハウス内でもマスク着用や手指消毒を行い、食

事は各居室にて摂取し飛沫感染防止に努めた。

#### 2-15 対馬ハウス

- (1) 日中活動先・通院先が利用者ごとに複数あり、連絡調整について不備がないよう努めた。
- (2) 1泊旅行か外出を計画していたが、感染症のため中止とした。
- (3) 利用者の些細な変化に注意し、その対応方法を関係機関と連携して調整対応した。
- (4) 身体障害のある利用者のADLが著しく低下傾向のため誤嚥予防や転倒防止に努めた。
- (5) 6月、1名が身体面の悪化で、退去した。
- (6) 11月に新規で、1名の入居があった。
- (7) 11月に精神面が崩れて1名の長期入院があった。
- (8) 新型コロナウイルス感染対策として、外出時はマスク着用、手指消毒をするように入居者に伝えていった。

#### 2-16 下立ハウス

- (1) 定期的な買い物支援を利用者が希望されたため、買い物支援を行った。新型コロナウイルス感染対策として、まん延防止期間中は入居者の買い物を代行した。
- (2) 不要不急の外出や外泊は控えた。マスク着用と手指消毒の徹底を呼び掛けた。
- (3) 身体に障害をもつ方のニーズに合わせ、訪問診療のある病院の利用に繋げている。
- (4) 必要に応じて利用者と一緒に居室の掃除や整理整頓を行った。

#### 2-17 生沼ハウス

- (1) 日中活動先・通院先で不備がないよう、利用者ごとに連絡調整を行った。
- (2) 毎月1回のミーティングを行い支援の確認を行った。
- (3) 利用者のニーズに対応するように支援していった。
- (4) 支援者が不在時に利用者が転倒をし、骨折してしまった。現在はハウス内で転倒しないよう改修工事等をし改善されている。
- (5) ハウス全体の改修工事が行われた。
- (6) 新型コロナウイルス感染対策としてマスク着用、手指消毒をするように入居者に伝えていった。

#### 2-18 矢指ハウス

- (1) 利用者個々のニーズを把握し、ニーズに応えられるよう努めた。
- (2) 利用者へ安全な介護を提供出来るよう内部研修を行っていった。
- (3) ハウス担当職員と世話人との連携を図るミーティングを実施した。
- (4) 新型コロナウイルス感染対策として、外食は中止とし入居者の希望を聞き、職員が代行で購入し各居室に届けた。食事は、時間差で摂取し世話人室が密にならないよう努めた。また、外出時にはマスク着用、手指消毒をするよう入居者に伝えていった。
- (5) R4年3月、新型コロナウイルスに男性1名感染し保健所に報告する。感染後は、居室にて隔離、マスク、手袋、エプロンを着用し支援ごとの手指消毒し対応した。

#### 2-19 小割ハウス

- (1) 内服薬の調整を行い精神状態崩れることなく過ごせた。
- (2) ハウス内では精神的には安定していた。また、外出時等には、予定外の事象で精神的に不安定になってしまう為、毎月の外出については2人体制での支援を継続した。調子を崩すことなく外出する事が出来ている。(毎月1回買い物、2ヶ月に1回美容室)

- (3) 目的意識を持って日中活動先に休む事なく通うことが出来た。
- (4) 毎月ケース会議を行い、様々な職種の方と情報共有し、支援を検討した。
- (5) 感染対策として外出時はマスク着用や手指消毒を徹底してもらった。

#### 2-20 折戸ハウス I

- (1) 精神症状の悪化等により、利用者が他住民とトラブルにならないよう支援した。関係機関と連携して再発防止に努めた。
- (2) 利用者それぞれのニーズに対応していった。
- (3) 9月、野中ハイツIIから1名入居する。
- (4) 新型コロナウイルス発生により感染対策として、個別の買い物について、世話人が代行する形に変えて対応した。また、マスク着用や手指消毒の励行を入居者に伝えていった。

#### 2-21 折戸ハウス II

- (1) ワンルームタイプの部屋を1人で利用するという特性上、利用者が生活上の悩みを一人で抱え込みやすくなってしまふ為、利用者とは対話する機会を増やし、本人が悩みを解決できるような環境作りを継続して行った。
- (2) 新型コロナウイルス緊急事態宣言中の対応として、各週の週末に買い物外出を希望される利用者についてはこれまで買い物の同行支援を行ってきたが、買い物へ出掛ける際に車内が蜜の空間となってしまうため、緊急事態宣言中は中止とした。代替えの支援として、大きな物や車での搬送が必要な物品については、事務所職員が代行した。
- (4) 外食支援を毎月1回行っていった。新型コロナウイルス緊急事態宣言中は中止とした。
- (5) 感染対策として外出時はマスク着用や手指消毒を徹底を呼び掛けた。

#### 2-22 仲才ハウス

- (1) 男性1名 R3年7月、近隣住民の方より煙草についての苦情あり、事業所の他のグループハウスへ移動する。
- (2) 11月に市内より男性1名入居する。
- (3) R4年3月男性1名身体機能の低下のため、2階の居室から1階の居室へ移動する。
- (4) 利用者の希望により、買い物、床屋などの付き添い支援を行なった。
- (5) 一人一人のニーズに合わせた支援を関係者共々考え、実行に努めており、来年度も同様に行っていきたい。
- (6) ハウス担当職員と世話人との連携を図るミーティングを実施した。
- (7) 新型コロナウイルス感染対策として、外食は中止とし入居者の希望を聞き、職員が代行で購入し各居室に届けた。食事は、時間差で摂取し世話人室が密にならないよう努めた。また、外出時にはマスク着用、手指消毒をするよう入居者に伝えていった。
- (8) R4年3月、新型コロナウイルスに男性1名感染し保健所に報告する。感染後は、世話人室を2階に移動し、マスク、手袋、エプロンを着用し支援ごとの手指消毒をして支援に努めた。

#### 2-23 川間ハウス

- (1) コロナ禍のため個別で買い物、床屋、通院などの付き添い支援を行い、利用者のニーズに応じていった。
- (2) 訪問看護ステーション・ソフィアの訪問看護を利用し、病状の変化に対応できる体制を整えた。

- (3) 月一回のミーティングで決める食事会も全員の楽しみとなっていたが、コロナ禍のため食事会の中止があった。食事会が中止の際は、テイクアウトにて対応をした。
- (4) 環境整備に努め、破損箇所が見つかった際には速やかに対応した。
- (5) 利用者1名が6月に逝去されている。

#### 2-24 上宿ハウス

- (1) 定期的にハウス内の環境整備を行った。

## IV 運営管理の概要

### 1 会議、委員会

新型コロナウイルスの状況を踏まえ、必要に応じて会議・委員会を行った。

- ・経営会議
- ・施設・事業所長会議
- ・法人グループホーム運営会議
- ・世話人会議
- ・各グループホームミーティング
- ・虐待防止委員会
- ・海上寮地域生活支援連絡会（隔週金曜日）
- ・旭中央病院連絡会
- ・地域生活支援連絡会
- ・総合安全対策委員会
- ・海匠世話人会議
- ・海匠設置者会（年2回）
- ・あい支援センター連絡会
- ・聖家族作業所連絡会
- ・ワークセンター連絡会
- ・その他、ケース会議、調整会議等

### 2 地域との連携（交流）

#### 2-1 行事

地域住民との連携については、例年野中地区の行事参加やもちつき大会において黒潮会の協力を頂くなど、交流の機会を継続的にもっている。

昨年同様に新型コロナウイルス感染対策により、殆どの地域において祭りなどが中止されており、清掃等の作業についても、地域の方々とともに行うことは難しい状況であった。感染症が収束しこれまでのとおり地域の活動が行われるようになった際には積極的に参加していきたい。

夕涼み会については、例年ナザレの家あさひ職員及び利用者が一堂に会し、実施する行事となっていたが、今年度も各班単位の行事に切替え、新型コロナウイルス感染症に留意した形で行った。

- 若衆内ハウス 町内会活動（町内清掃・区民会館清掃等）
- 野中ハイツⅠ 町内会活動（町内清掃等）
- 野中ハイツⅡ 町内会活動（町内清掃等）
- 下立ハウス 町内会活動（町内清掃等）
- 対馬ハウス 町内会活動（町内清掃等）
- 大割ハウス 町内会活動（町内清掃等）

矢指ハウス 町内会活動（町内清掃等）  
折戸ハウスⅠ 町内会活動（町内清掃等）  
折戸ハウスⅡ 町内会活動（町内清掃等）

## 2-2 ボランティア

黒潮会 もちつき会 4名（物品借用を含む）

## 2-3 見学者

- 3. 5. 7 利用希望者
- 5. 14 利用希望者
- 6. 8 聖路加国際病院研修医
- 6. 15 聖路加国際病院研修医
- 6. 16 共同生活援助事業所職員
- 6. 24 利用希望者
- 6. 29 利用希望者  
聖路加国際病院研修医
- 7. 6 聖路加国際病院研修医
- 7. 15 開設希望者
- 7. 30 利用希望者
- 8. 2 利用希望者
- 8. 24 利用希望者
- 9. 7 聖路加国際病院研修医
- 9. 14 聖路加国際病院研修医
- 9. 22 利用希望者
- 9. 24 開設希望者
- 10. 6 利用希望者
- 10. 8 利用希望者
- 10. 10 利用希望者
- 10. 19 聖路加国際病院研修医
- 11. 9 聖路加国際病院研修医
- 11. 16 聖路加国際病院研修医
- 12. 7 聖路加国際病院研修医
- 12. 13 利用希望者
- 12. 14 聖路加国際病院研修医
- 4. 1. 18 聖路加国際病院研修医
- 1. 21 飯高特別支援学校

## 3 防災、緊急時の対策

ア 新型コロナウイルス感染対策における BCP マニュアルの見直しを実施した。

イ 新型コロナウイルス感染状況

令和4年3月11日に1名の陽性が判明してから、職員5名、利用者7名の陽性を確認した。それ以外に疑いの方2名と、一時は5つのホームを感染対策を行う形で支援してきだが、令和4年3月31日に全てのホームの療養期間を終えることが出来た。体制を組むことが難しくなっている中で、各事業所に応援要請させていただいた所、50名を超える人から手を挙げていただき、大変有難いと感じたと共に、事業所職員一同大変心強く感じた。また、法人本部はじめ、いくつかの事業所からは物資のご支援もいただいた。

- ウ 感染症に関する内部研修を、密を避けるため個別に実施、周知していった。
- エ 防災訓練・防災対策
  - R3. 6月21・22・23・24日 全グループホーム防災訓練
  - R3. 9月1日 合同防災訓練・小型無線機の送受信確認
  - R3. 11月19日 消防署立ち入り検査
  - R4 3月28・29・31日 全グループホーム防災訓練  
※コロナ感染者でた為、中止
- オ 防災設備点検
  - R3. 9月13・14・22日 消防設備点検
  - R4 3月16・17・18日 消防設備点検  
※コロナ感染者でた為、中止
- カ 緊急連絡網は随時更新し、最新のものを配布していった。
- キ 火災の原因となるものは環境整備し対応、消防署の立ち入り検査時は、指摘をうけた所を速やかに改善していった。又、職人、利用者に火災の注意喚起を行っていった。

#### 4 福祉サービスの向上

- ア 毎月1回所内ミーティングを開催し、情報の共有や各ハウスの課題・問題点等を話し合い、サービスの改善に取り組んでいった。
- イ 世話人会議において研修を実施しサービスの質向上に努めた。新型コロナウイルス感染症が近隣地域で発生している間は、小規模なグループでの研修に切り替え研修を行っていった。
- ウ 福祉サービス共通基準及び職員行動規範チェックリストを全職員が実施した。評価内容の集計を行い、世話人会議の中で集計結果を振り返り、サービスの質向上に努めていった。

#### 5 権利擁護

- ア 虐待防止委員会を毎月開催し虐待と思わしき事例がないか、サービス提供は適切か協議していった。虐待防止委員会で話し合った結果を所内ミーティングの時間を使いフィードバックし、虐待の防止に努めた。
- イ 令和3年度障害者虐待防止・権利擁護研修に役職者を参加させ、研修の内容を職員に伝達した。
- ウ 令和3年度千葉県障害者グループホーム大会に職員を参加させ、権利擁護や利用者の意思決定について学ぶ機会を設けた。

#### 6 苦情解決

苦情受付・解決件数4件

利用者が生活を送るうえでのルールに関する相談が地域の方よりあった。地域住人や不動産会社と協議を進め解決に至っている。

#### 7 情報公開

県の情報公開制度については更新を行ったが、事業所のホームページについては更新を行うことはできなかった。次年度以降は、IT担当を中心に最新の情報提供が行えるよう努めていきたい。

#### 8 職員の動向

##### 8-1 職員の異動

採用者 7 名 異動者 2 名 退職者 9 名

- R 3. 4. 1 小篠 篤央異動  
 4. 3 0 鈴木 和江退職  
 5. 2 0 飯田 麻里採用  
 7. 1 稲田 奈緒子採用  
 8. 8 佐藤 加代子採用  
 8. 3 1 五味渕 礼乃退職  
 1 0. 2 0 実川 幸起退職  
 1 1. 1 DAO THI THUY採用  
 1 1. 3 0 秋葉 翔太退職  
 1 2. 1 村上 有理異動  
 1 2. 1 小林 真智子採用  
 1 2. 1 1 小林 真智子退職  
 1 2. 2 1 戸田 貴子採用  
 1 2. 3 1 吉野 栄子退職  
 R 4. 2. 1 4 加瀬 充明採用  
 2. 2 2 加瀬 充明退職  
 3. 1 9 小山 楓退職  
 3・3 1 伊藤 憲伸退職

\*秋葉、小山、伊藤に関しては、大学卒業と共に就職が決まったことによる退職となる。

## 8-2 休暇等の状況

	人数	年間発生日数	取得日数	平均取得日数	取得率 (%)
常勤職員	15	276.0	184.0	12.3	66.7%
(昨年度)	(14)	(274.0)	(161.4)	(11.5)	(58.9%)
非常勤職員	39	525.0	442.2	11.3	84.2%
(昨年度)	(36)	(478.0)	(340.2)	(9.5)	(71.2%)
合計	54	801.0	626.2	11.6	78.2%
昨年度	(50)	(752.0)	(501.6)	(10.0)	(66.7%)

有給休暇の5日以上の取得については個人差があるものの、取得率としては常勤・非常勤ともに過去3年間と比較して最も高い数値となった。ロザリオの聖母会次世代育成支援行動計画で掲げられている有給休暇の取得率60%の維持を基本として、より計画的な取得を推進していきたい。

## 8-3 衛生管理

- ア 全職員を対象としたO-157の保菌検査及びインフルエンザの予防接種に加え、希望者に対して新型コロナウイルスワクチン接種を実施した。
- イ 千葉県事業の障害者居住系サービス事業所等の職員に対するPCR検査を活用し、検査可能期間中の全職員のPCR検査を実施し、新型コロナウイルスの早期発見に努めた。また、新型コロナウイルス感染症が疑われる方については事業所の抗原検査キットを適宜活用していった。

## 8-4 研修

- R 3. 5. 2 1 技能実習責任者講習  
 5. 2 6 技能実習責任者講習

- 6. 23 技能実習指導員講習
- 6. 26 技能実習指導員講習
- 11. 16 千葉県障害者グループホーム講座
- 11. 29 世話人会議「個人情報保護法」
- 12. 2 救命講習
- 12. 18 第1回障がい者の地域生活セミナー「親なきあとも地域で暮らすために」
- 12. 20 世話人会議「誤嚥研修」
- R4. 2. 18 第13回千葉県障害者グループホーム大会 WEB
- 2. 28 旭市地域自立支援協議会虐待防止研修会

## 9 補助金

障害者グループホーム運営費補助金（16市町） 12,387,630円  
 千葉県障害福祉サービス施設・事業所等における感染防止対策支援事業支援金 7,000円

## 10 自立支援給付費収入・補足給付費収入

訓練等給付費収入 188,646,347円  
 利用者負担金収入 79,273円  
 特定障害者特別給付費 9,704,235円

## 11 寄附物品（敬称略）

	寄附者	寄附内容
1	石橋 啓子	米（30kg）

## V 資料

別紙1 職種別職員一覧表（令和4年3月31日現在の職員数）

別紙2 組織図（令和4年3月31日現在の組織図）